



ACTION! すみだSDGs

貧困、人種や性別における不平等、環境破壊、教育格差…。

今この瞬間も様々な問題で苦しんでいる人が世界中に存在し、

このまま放置すればいずれこの地球で暮らし続けることさえ危ぶまれるでしょう。

この問題に1つずつ向き合い、持続可能な未来を創っていく。

それがこの時代に生きる“私たち”のミッションです。

では、この“私たち”とは誰を指すのでしょうか？

それは、国際機関かもしれません。

企業かもしれません。

そして、墨田区のことでもあります。

これを読んでいるあなたのことでもあります。

そう、この地球に関わるすべての人を指しているのです。

それぞれの立場の人ができることを実行し、

力を合わせて1つずつ課題に取り組んでいく。

墨田区も、みなさんと一緒にこの課題に立ち向かいたいと思っています。

誰ひとり取り残さない。

これは、SDGsの重要なキーワードです。

墨田区も、そんな区でありたいと考えています。

なぜなら、地域で暮らす方々の豊かな暮らしを支えることこそ、墨田区の役目だからです。

苦しい環境にいる人を誰ひとり取り残さない経済・社会・環境を、

将来にわたって築いていく。

それが墨田区の目指す持続可能なまちの姿です。

その実現のためには、皆さんの理解と参加が不可欠です。

この冊子を通して、

どうやったらそんなまちが創れるのか、

一緒に考えてみませんか。



まずはSDGsとは何か、とい
「なんだか耳障りの良いことがたくさん
「私たちの生活と関係あるの？」
しかし、SDGsはむしろ私た
実現しなくては、いまの生活を

うことから始めましょう。
挙げられているけど、実現できるの？」
と思われるかもしれません。
ちの生活そのものなのです。
続けることができないのです。

SDGsとは？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標SDGsとは

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

出典:外務省ホームページ(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)

SDGsの17の目標

- | | | |
|---------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 貧困をなくそう | 7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに | 13 気候変動に
具体的な対策を |
| 2 飢餓をゼロに | 8 働きがいも経済成長も | 14 海の豊かさを守ろう |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 9 産業と技術革新の
基盤を作ろう | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 4 質の高い教育をみんなに | 10 人や国の不平等をなくそう | 16 平和と公正をすべての人に |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 11 住み続けられるまちづくりを | 17 パートナリシップで
目標を達成しよう |
| 6 安全な水と
トイレを世界中に | 12 つくる責任 つかう責任 | |

私たちが今後も目の豊かさだけを追い求める生活を続けていたら、これらの目標はいつまでも達成されることはないでしょう。
そうすれば安定してこの地球で暮らし続けることさえ難しくなります。

もしあなたが新しい事業を立ち上げてお金持ちになったとしても、過剰にエネルギーや資源を使っていたら、その豊かさはいつか必ず終わりを告げます。
もしも世界中の人が貧困から抜け出し、性別や環境に関わらず質の高い教育を受けることができれば、いずれ世界をアッと驚かせるアイデアや、みんなを幸せにする仕組みを考える人がたくさん現れるでしょう。あなたの生活もきっといい方向にむかいます。

どうですか？
あなたの生活とSDGsの関係が少しイメージできたでしょうか？

そんなSDGsの実現に向け、日本では『持続可能な開発目標(SDGs)推進本部』を設けて関係行政機関が相互に連携しながら効果的な推進を図っています。そしてここ墨田区からも、実現に向けた取組を始めていきます。

世界から見たら墨田区は小さな存在かもしれませんが、それぞれの立場でできることから始めれば、いずれ世界を変える大きなアクションへとつながっていきます。ここからは墨田区が目指すビジョンをお伝えします。

2030年へ向けて。墨田区の理想って？

「働きがい」を起点にした、「生きがいのある豊かな暮らし」

経済、社会、環境それぞれへの取組が良い形で循環するまちづくりを目指します。



まだ少し漠然としていますね。墨田区ではこの“あるべき姿”を計画的に推進するため、『墨田区SDGs未来都市計画』を立案しました。ここからは、その計画から、「経済」「社会」「環境」それぞれの“あるべき姿”を具体的に見てみましょう。

経済

多様な産業を担う企業が集まる墨田区。その企業や事業者がそれぞれに生み出す付加価値が、しっかりと“稼ぎ”へつながることを目指します。多くのものづくり企業が集まる特徴を活かして、**墨田区内の企業・事業者が持続的に経済を回していける構造**が、さらに地域の価値向上につながります。



社会

区民がいつまでも「健康」を実感しながら、生き生きと暮らしていける社会を目指します。医療体制の強化に加え、**やりがいを感じながら、健康的に働くことができる「健康経営®」**への取組や、個性が尊重され、障害や性別・年齢に関わらず**誰もが活躍できる**ことが「健康に暮らすこと」につながります。

®「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



環境

カーボンニュートラルを見据えた、**環境に配慮した働き方・暮らし方の実現**を目指します。エネルギー消費量やゴミの削減、クールビズ・ウォームビズへの取組、そして環境学習を通じた次世代への教育を行います。また、気候変動に伴う水害などへの対策を行い、安心して住み続けられるまちをつくれます。



理想像が見えてきましたか? 「でもそう簡単に実現できるの?」と思われるでしょう。私たちも簡単だとは思っていません。ですが、現状と照らし合わせて課題を洗い出し、具体的な解決策へと乗り出しています。

理想の墨田区を実現するためには?

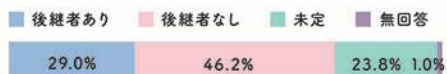
経済

[今ある問題]

区内の産業を担う人材の「質」・「量」の不足

墨田区に根付いてきた様々な産業。しかし今、経営者の高齢化、後継者不足、産業の下請け体質などの問題から、人材の不足が課題となっています。墨田区が誇る産業とその担い手が生み出す「価値」をさらに発展させ、経済の好循環が生まれる基盤づくりが必要です。

区内製造業における後継者の有無



後継者のいない区内製造業が約46%

出典: 墨田区「平成21年度墨田区製造業実態調査」

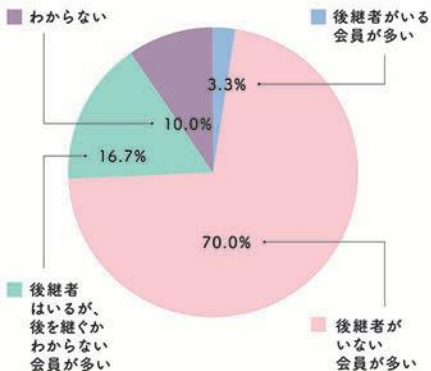
区内製造業における経営者の年齢



約54%が65歳以上

出典: 墨田区「平成21年度墨田区製造業実態調査」
※構成比は小数点第2位以下を四捨五入して算出しているため、合計が100%とならない

商店会の会員店の後継者の状況について



後継者がいない会員店が70%

出典: 墨田区「平成24年度区内商業活性化のための実態調査」

ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業

民間企業等と連携しながら、開発・製造・実証実験等の事業をサポートする拠点を運営。区内企業とスタートアップの連携を促進します。

ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業



- プロトタイプ開発・製造・実証実験拠点
株式会社浜野製作所と連携した「東墨田会館」の管理・運営
- 学生スタートアップ集積拠点
情報経営イノベーション専門職大学(iU)・千葉大学との「公・民・学」連携
- ミドルステージ・スタートアップの開発・発信拠点
株式会社アストロスケールホールディングスを中心とした「(仮称)すみだコラボトリー」の整備

すみだモダン (すみだ地域ブランド戦略)

「ものづくりを通して、未来のスタンダードを創造し、人々の幸せを育む活動」の新たな定義の下、事業者とのパートナー連携やフラッグシップ商品開発などを実施します。



STEAM人材育成 / PROJECT SUMIDA

未来の墨田区の産業を担う次世代人材の育成、子どもたちへの啓発プログラムなどを実施します。

社会

…………… [今ある問題] ……………

誰もが自分らしく、健やかに暮らせる環境づくり

新型コロナウイルスの感染拡大によって人々の生活が大きく制限されました。「健康的な暮らし」はこういった感染症の増加をはじめ、医療資源の不足、災害などによって簡単に脅かされてしまいます。持続可能な社会を築くためには、そういった事態への具体的な対策が不可欠です。

● 65歳健康寿命

区民65歳健康寿命(人生の中で認知症や寝たきりにならないで生活できる期間)の内、特に男性は、東京の平均を下回る傾向があります。



出典:東京都福祉保健局「平成26年 都内各区市町村の65歳健康寿命」

● 現在の健康状態が「とてもよい・まあよい」と回答した者の割合

親しく付き合っている者が多い地域の方が、主観的健康観が高い傾向があります。



出典:墨田区「令和元年度「墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」及び「墨田区在宅介護実態調査」の報告書」

…………… [それを解決するために] ……………

● 区民の健康度評価研究事業／健康の社会的決定要因 (SDH) の分析

健康に影響を及ぼす社会的な要因(SDH)を地域レベルで明らかにするため、健診・医療・介護等の健康に関するデータ等を千葉大学との連携により分析。その結果を活用することで、地域全体で健康を後押しし、「誰ひとり取り残さない」健康づくりを推進します。



● 墨田区版「健康経営」認定制度

墨田区版「健康経営」認定制度の仕組みづくりを行い、区内中小零細企業が従業員の健康の保持・増進に一層の関心を持ち、地域全体の健康度を底上げする制度を構築します。

また、組織間の連携や働く人の健康づくりを目的に地域保健と産業保健の関係者で構成する墨田区地域・職域連携推進会議(仮称)を設置します。



● 新保健施設等複合施設の整備

健康にかかわる問題は、子育て・福祉・教育など幅広い分野と関連し、複数の問題を抱えた人、その問題が複雑に絡み合った人への対応の必要性が高まっています。そこで、区民が生き生きと健康に暮らす「生涯健康都市」を目指し、保健所、子育て及び教育の機能を集約した新しい時代の保健医療福祉の拠点として、健康づくりを中心とした様々な課題に切れ目なく対応する複合施設を整備します。

また、災害時保健医療体制や感染症対策などの有事には、その拠点としても活用します。



環境

…………… [今ある問題] ……………

エネルギー問題、環境資源を守る取組

2050年カーボンニュートラルの実現

地球温暖化を原因とする気候変動で、世界の各地で自然災害等が発生しています。記録的な猛暑や寒波、大雨による大規模水害など、生態系に影響を及ぼすだけでなく、私たちの生命や財産をも脅かすものとなっています。

2050年のカーボンニュートラルに向けて、区内全体でさらに具体的な目標を持って取り組む必要があります。

※カーボンニュートラル：温室効果ガスの「排出量」から、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること



大切な環境資源を守り、活かす

墨田区は、隅田川や旧中川、荒川など水辺に恵まれた環境です。こういった河川や雨水などの水資源のほかに、海洋資源、森林など多様な自然環境を守ることは、持続可能なまちづくりには欠かせません。

様々な企業が拠点を構える墨田区では、環境汚染やそこから広がる健康被害などの状況を注意深く観察して、未然に防ぐ対策が求められます。



● 地球温暖化の防止

墨田区は、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指すこととし、「すみだゼロカーボンシティ2050宣言」を行いました。環境教育や啓発により、地球温暖化対策のための「賢い選択」=COOL CHOICEなど、できることから、環境にやさしい行動を区民のみなさんと一緒に行っていきます。

● 雨水の利用

平成12年に国際環境自治体協議会(ICLEI)が創立10周年を記念して行った「国際自治体環境賞」に、墨田区の雨水利用推進事業が選定されました。

現在も、省エネルギーや水資源の有効活用、都市型洪水の防止に向け、雨水を利用した雨水タンクの設置を促進しています。

● 緑化の推進

緑や生物多様性を守り、育む取組を推進し、将来にわたって緑と生物の恵みを感じながら住み続けられる生活環境づくりを目指していきます。

● ごみの削減

ごみを減量し、循環型社会を実現するためには、2R(発生抑制・再使用)が重要です。誰もが分かりやすい情報を提供し、区民・事業者が2Rの推進に積極的に取り組めるよう支援するほか、マイバッグやマイボトルの使用を推奨するなど、ワンウェイプラスチックを使用しないライフスタイルへの転換にも取り組んでいきます。



…………… [それを解決するために] ……………

SDGsに貢献する“商い”のかたち

墨田区役所だけでなく、墨田区に拠点を置く企業も具体的な対策に乗り出し、みなさんの利用する商品やサービスの背景に

ています。ここでは積極的にSDGsに取り組む企業にお話を伺いました。こういった工夫があるのか覗いてみましょう。



DOC Japan株式会社

代表取締役社長
大川彰子さん

化粧品業界にもSDGsが浸透

シャンプーやボディソープなどの化粧品原料の開発・製造・販売を行うDOC Japan。その事業におけるSDGsの考え方について伺いました。「日本は元々、SDGsに対して親和性の高い国だと思います。近江商人の“三方良し”の考え方など、私たちの心の中にあったものが、SDGsというグローバルな統一目標として明確になった、という感覚があります。特にこの1、2年でSDGsの認知がさらに広まり、化粧品の原料にもSDGsの話題が及ぶようになってきました。」会社設立に当たり他社との差別化を図る中、天然の原料

を中心としたアプローチで製品展開を行ってきた同社。「私たちがご提案する原料は、天然だからという理由ではなく、原料としてパフォーマンスが良いことを前提にお勧めしています。そこへ近年は、化粧品メーカー様の中でも“環境に配慮した原料を”という意識が高まり、天然由来のものが選ばれる頻度が上がってきたと思います。例えば弊社では、ジャガイモデンプンや、マメ科のタラという植物から採れるタラガムという原料などを扱っています。生産段階から、環境負荷や食料供給に影響のない材料であることも確認して調達をしています。」

墨田区のサポートで、継続できること

同社の事業では、研究開発や特許の取得も重要となります。「特許出願に関する助成や、産業技術研究センターの利用助成など、区のサポートはありがたいですね。」また同社は、区の「すみだリーディングファクトリー」でSDGs推進部門に選定されています。「選定の背景の一つに、ツバキ種子油に関する事業があります。このツバキ種子油は東京都利島村で生産されており、弊社では持続可能な素原料の確保、そして伝統産業の継承への貢献を目的に、収穫作業のお手伝いとして大学生の派遣を行っています。今後区内の大学とも連携し、この事業も継続的に行えたらと期待しています。」区のサポートをうまく活用して事業活動を発展させることで、素原料生産者の事業継続や、伝統産業を未来へと受け継ぐ活動へとつながっています。

株式会社ルネサンス

取締役常務執行役員・
最高財務責任者・経営管理本部長
安澤嘉丞さん

健康から、生きがいの創造へ

スポーツクラブの運営や介護・リハビリ事業など様々な事業を展開するルネサンス。「私たちはSDGsという概念が生まれる前から、“生きがい創造企業”という企業理念のもと、事業活動を通して社会に貢献してきました。スポーツクラブでは子どもから大人まで幅広い層に向けたスクールなどを運営しています。一方で、そのノウハウを活かし、介護リハビリに特化した“元氣ジム”というデイサービス事業も行っています。このような事業を通じて、多くの方の健康を支援していきたいと考えています。」また同社は、区からの受託事業として、区の健康施策にも携わっています。「例えば、当社の施設を使って開催する、高齢者向けの水中ウォーク教室などがその一つです。そのほか、区の介護予防事業に携わるボランティアを育成する介護予防サポート講座なども実施しています。」このように、幅広い健康づくりに関する事業を継続することが公共の福祉にも還元されており、企業と区が連携することで健康で豊かなまちづくりが加速していきます。

暮らしに合わせて、サービスも多様化

現在は働き方の多様化など様々な変化によって、健康面の課題も多様に。そんな中、同社は健康経営®の普及・啓発を支援する「健康経営会議実行委員会」の事務局を担っています。「会議では、コロナ禍での健康づくりや働き方のあり方について提言をさせていただいています。また区内の企業に向けて体力測定や健康セミナーを行うなど、“健康経営”の実践も支援しています。」最近では、より多様な環境で暮らす方々に向けた事業展開も行っています。「スポーツインストラクターによるオンラインレッスンの動画配信を実施しています。このような取組は、地方で暮らす方はもちろん、感染症対策として外部の人の受け入れが難しくなっている介護施設などでも活用されています。」多様化する健康課題にいち早く目を向け、時代や地域のニーズに合わせた取組が、私たちの健康を支えています。

●「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。





アサヒユアス株式会社
代表取締役社長
高森志文さん

楽しく、身近なところから

アサヒユアスはアサヒグループが2022年1月に新たに始めた会社で、様々な企業とSDGsに関わる活動を行っています。「すみだモダン」に認定された「森のタンブラー」もその一つ。「アサヒとパナソニックが共同開発した「森のタンブラー」は、植物繊維を活用した世界初のエコカップです。こちらをはじめ様々な活動が認められて「すみだモダンパートナー」の認定を受けました。2021年には、この「森のタンブラー」を活用したごみ削減の実証実験も実施しました。対象店舗に「

森のタンブラー」を持参すると、テイクアウト商品購入時に割引が受けられるなどの特典を用意し、プラスチックごみの削減へとつなげる試みです。」ほかにも、衣料品業界との共創事業など、業界の垣根を越えて様々な取組を行う同社。「我慢や無理を強いるようでは、サステナビリティの取組が生活に根付くことは難しいと考えます。生活者にとってすぐ身近な「衣」や「食」を通じて、おしゃれに楽しく続けられる取組を広めたいと思っています。」

地域を巻き込み、より大きな広がり

また同社では、次世代に向けたサステナブルなライフスタイルを提案する「UPCYCLE B」プロジェクトにも取り組んでいます。区内にある「東京隅田川ブルーイング」では、廃棄コーヒー豆を使った「蔵前BLACK」や、「パン耳」をアップサイクルした「蔵前WHITE」といったサステナブルクラフトビールが誕生してきました。この活動では、廃棄物の削減・有効活用を推進しながら、障害のある方の多様な就労機会を生み出すことで、地域経済の活性化をめざしています。「SDGsへの取組は、地域が丸となることでより大きく広がる可能性を持っています。例えば1つの商店街で、ドリンクはタンブラーを、お惣菜はお弁当箱などを持参して購入する活動を行えば、大幅なプラスチックごみの削減が期待できます。地域全体が「量り売りの街」となるイメージです。」同社が業界の垣根を越えて様々な活動を実施してきたように、私たちも「一緒にやろうよ」と声を掛け合うことで、それが地域の大きな活動へとつながっていくのかもしれない。

花王グループカスタマー
マーケティング株式会社
社会コミュニケーション部門
首都圏地区 部長 北村 司さん
シニアリーダー 井浪 寧さん

きれいを ころに 未来に

花王と消費者をつなぐ「販売」という最終プロセスを担う、花王グループカスタマーマーケティング。同社は昨年1月社会コミュニケーション部門を新設し、清潔・美・健康分野での花王の知見を活用した、様々な啓発活動を行っています。花王は、生活者の持続可能なこころ豊かな暮らし「Kirei Lifestyle」が何よりも大切だと考え、その実現に向けた取組がSDGsへの貢献にもつながっていると考えています。「例えば、洗剤やヘアケア製品、全身洗浄料などは、現在8割〜9割が詰替えタイプを購入いただいています。この詰替えパウチは特殊な素材のためこれまでリサイクルが難しかったのですが、その詰替えパウチのリサイクルにも取り組んでいます。また主力商品の一部では、100%再生プラスチック容器を使ったものも販売しています。メーカーの責任として、これらプラスチック製包装容器の回収とその水平利用への取組を今後さらに強化したいと考えています。」

あらゆるシーンで役立つ、知識の提供を

区内でも、これまで様々な啓発活動を行っています。「弊社は、以前からすみだ環境フェアに出展しています。昨年は、花王国際こども環境絵画展の入賞作の展示を行いました。今後は、お子さんが参加しながら環境について学べるクイズなど、イベントも実施していければと思っています。」このほか、社員自らが講師となって、様々な啓発セミナーも実施。保育園や幼稚園での手洗い講座、小・中学校、高校でのプラスチックごみ講座、大学や介護施設でのメイク講座など、幅広く展開しています。「コロナの感染拡大状況に応じて、オンライン講座や、感染症対策をしっかりと行っの出張講座を開催しています。花王の持つ知識・知見を活用し、ご要望に合わせて暮らしに役立つ情報を提供しています。また、提供する場もさらに増やしていきたいと考えています。」積み重ねてきた、清潔・美・健康への取組は、商品としてだけでなく、様々な形で私たちの生活を豊かにしてくれています。



企業も事業の成長を目指すからこそ、単に利益を追求するのではなく、持続可能なビジネス戦略を本気で考えていることがわかりましたね。

ここまで墨田区や企業の取組を見てきましたが、

最後にあなた自身にできることを考えてみましょう。

実は私たち一人ひとりにできることは、こんなにたくさんあるんです。

● 学校や勤務先でできること

● 性別を問わず、会議では積極的に多くの人の意見を取り入れましょう。無意識に男性のみで意思決定していないかなど、客観的に判断することが大切です。

● 使っていない会議室や教室の電気は消しましょう。またそこにあるコンピュータや電化製品も、使わない時間は電源をオフにしましょう。

● コピーや出力など、無駄な紙の利用は避けましょう。オンラインでデータを共有できるシステムもたくさんあります。ぜひ活用してみましょう。

● 飲み物はマイボトルなどに入れて持っていきましょう。毎日の飲み物習慣が、ペットボトルや紙コップの削減につながります。



私たちの暮らし方

● おうちでできること

● スイッチ付きの電源タップを使ってみましょう。コンセントの抜き差しをせずに、使わないときは電源タップのスイッチをオフにするだけで、待機電力の削減につながります。

● オンライン決済やモバイル決済を利用してみましょう。紙の請求書や銀行振込用紙を使わずに、ペーパーフリーで支払しましょう。

● 「いいな」と思った取組や考え方をSNSなどでシェアしましょう。自分だけでなく、周りの人に教えることで、自分の周りから少しずつ良い方向へ変化が起こるかもしれません。

● 性別の分け隔てなく、家事や子育てを分担しましょう。



● 外出先でできること

● 購入するものの生産・製造工程に目を向けましょう。そもそも生産・製造工程がわかるようになっていないか、どんな労働環境で作られたものかなどを、調べてみましょう。

● 食品を購入するときは、賞味期限が近いものから購入しましょう。無駄なフードロスを防ぎ、環境にもやさしい食生活を目指しましょう。

● まちのレンタサイクルを使ってみましょう。あちこちに自転車を借りて返せるステーションがあります。よく使う地域のレンタサイクルを検索して、自動車での移動を減らしましょう。

● 買い物にはマイバッグを持っていき、スーパーやコンビニ、薬局などのレジ袋削減につなげましょう。



いかがでしたか？

SDGsをこうして丁寧に見ていくと

“私たちの生活そのもの”

であることがわかりただけだと思います。

墨田区はこれからも、墨田区ができること・

すべきことを実直に続けていきます。

そしてこれを読んだあなた自身も、

自分だからこそできることが

きっと思い浮かんだはずです。

まずはそれを実行してみてください。

私たちのそうした取組が、

地球に暮らすすべての人の

豊かで持続可能な未来を創っていきます。

